

せいしょかしよ き しょう
聖書箇所：ルツ記1章

きょう
◆今日のみことば

「ナオミは彼女たちに言った。『私をナオミと呼ばないで、マラと呼んでください。全能者が私を大きな苦しみにあわせたのですから。』」ルツ記1章20節

◆メッセージ

あなたは今、悲しくてたまらないかもしれません。ナオミもそうでした。家族四人でモアブという外国に引っ越して住んでいましたが、その地で、頼りにしていた夫が死んでしまったのです。それでもナオミは、二人の子どものため悲しんでばかりもいられず、いっしょうけんめい働きました。ところが、自分のいちよりも大事なその子どもたちまで、次々に死んでしまったのです。たった一人になってしまったナオミは、どんなに悲しくてさびしかったことでしょうね。

ナオミは、ふるさとのベツレヘムに帰りました。昔のナオミを知る人たちに、「私をナオミ（快い）と呼ばないで、マラ（苦しい）と呼んでください。」と言うほど、ナオミの心は苦しみにいっぱいでした。「苦しい」という名前のほうが今の私にぴったりだという気持ちだったのですね。ナオミのように、苦しい時は苦しいと言っていいのです。泣きたい時は泣いていいのです。がまんして、平気そうな顔をする必要はありません。

でも、続いてナオミが「全能者が私を大きな苦しみにあわせたのですから」と言ったのは、どういう意味でしょうか。神をうらみ、神はひどいと非難しているのでしょうか。そうではありません。ナオミは、自分がどんな苦しみにあおうと、それを偶然や人のせいにはしていません。全能の神がなされたことだと受けとめているのです。「全能」というのは、「何でもできる」ということです。世界を造られた全能の神に、間違いや失敗などあるはずはありません。なぜ悲しいことが起こるのか理由は全くわからなくても、この神に信頼し続けましょう。神は、あなたを見捨てたのではなく、今も、あなたを心から愛しておられるのです。

ナオミは、悲しみにいっぱいでした。それでも全能の神を信じ続けたナオミに、神はすばらしい計画を用意していただきました。今どんなにつらくても、全能の神を見続けましょう。いつか必ずあなたにも、やさしい神の御手が見えてくるはずですから。

◆お祈り

「神さま、今とても悲しいです。でも、どんなつらいときでも、全能の神さまに信頼することができますよ、お助けください。」

(和泉福音教会伝道師 遠藤芳子)

せいしよかしよ ふくいんしよ しやう せつ
聖書箇所：ヨハネの福音書 11 章 35 節

◆今日のみことば

「イエスは涙を流された」ヨハネの福音書 11 章 35 節

◆メッセージ

くる かな けいけん かみ とお そんざい わたし きも わ
苦しいこと、悲しいことを経験して、神さまは遠い存在。私の気持ちなど分かってくれるはずがない。
かんが
そのように考えたことはないでしょうか。

じゅうねんいじょうまえ わたし あに ちち つづ てんごく おく とお す
十年以上前になりますが私は、兄、父を続けて天国へ送ったことがありました。遠くに住んでいました
ので、どちらも直接のお別れを言うことも出来ず、とても寂しく、深い悲しみの中にいたことを思い出
します。

とき きやう せいしよ かしよ おも だ ちじやう はたら とき た
その時、今日の聖書の箇所を思い出しました。イエスさまが地上でお働きになっていました時、よく立
ち寄っていた家があります。それはベタニアという町にあるマルタ、マリアという姉妹の家です。お忙
まいにち す やす え ぼしよ かのじよ ひとり
しい毎日を過ごしていたイエスさまにとって休みを得られる場所であったでしょう。彼女たちにはもう一人
ラザロというおとうと とき かれ おも びやうき し
弟がいましたが、ある時、彼が重い病気にかかった知らせがイエスさまのもとに届くのです。
しかし、イエスさまがその家に着いた時にはラザロが死んで四日もたっていたのです。

せいしよ し たいめん まえ なみだ なが しる なみだ なみだ
聖書は死んだラザロと対面する前に「イエスは涙を流された」と記しています。この涙はどんな涙で
あったのでしょうか。

ひと かぞく あい おも いっしょ も くだ なか なが なみだ
一つはこの家族を愛されていたイエスさまですから、その思いと一緒に持って下さった中で流された涙
であったと思います。なぜならイエスさまは「私たちの弱さに同情できない方ではありません」と書か
れていました。わたし かな し いっしょ なみだ くだ かた
私たちの悲しみを知り、一緒に涙して下さるお方なのです。

ひと し つみ し わたし にんげん ふか どうじやう
もう一つはラザロの死にあたって、罪ゆえに死ななければならない私たち人間への深い同情です。そし
てその同情は、イエスさまを信じる者が死に滅びるのではなく、いのちを得て、天国において永遠に生き
るために、ご自身のいのちをささげられることによって、愛として私たちに示されたのです。

ふか かな とき わたし ひとり とも なみだ くだ お
深い悲しみの時、私たちは一人ではありません。イエスさまが共にいて涙して下さり、そこで終わること
のない希望を与えて下さるのです。

◆お祈り

かみ わたし かな し とも な くだ かんしゃ
「神さま、私たちの悲しみを知って、共に泣いて下さるイエスさまがおられることを感謝します。そして
そのイエスさまの与えて下さった希望によって歩み、先に天へ召された方々との再会を待ち望むことが出来
ますように。」

（衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人）

せいしよかしよ そうせいき しょう
聖書箇所：創世記23章

◆今日のみことば

「その後アブラハムは、マムレに面するマクペラの畑地の洞穴に、妻サラを葬った。マムレはヘブロンにあり、カナンの地にある。」創世記23章 19節

◆メッセージ

みなさんの中で愛する家族が死んで葬式に出たことのある人がいますか。とても悲しく辛いことですね。私も小学生の時にその経験をして、生きることと死ぬことについて考えるようになりました。

人は神さまからいのちを与えられ、神様がお決めになった時にそのいのちを終えます。葬式は愛する人を思ってする最期の別れの時であり、自分もいつか死ぬことを心にとめ、私たちにいのちを与えお取りになる神さまを礼拝する時です。墓地は遺体や遺骨を納め、天国に行った人を思い浮かべて神様を礼拝する場所です。

信仰の父と呼ばれるアブラハムは、75歳の時にあなたを通して多くの国民を祝福するという約束を信じて、神様に示されたカナンの地に行きました。妻のサラはアブラハムと喜びも悲しみもともにして、祝福された日を過ごし、127歳で死にました。その時アブラハムは「愛する妻のために悼み悲しみ、泣いた（創23:2）」のでした。辛いこともたくさん味わったアブラハムですが、このときほど悲しかったことはありませんでした。

アブラハムは、神さまが彼とその子孫に与えると約束されたカナンの地ヘブロンに妻サラを葬ることを決心し、土地の人たちに墓地を譲ってほしいと申し出ました。人々は自分たちの最上の墓地に葬るように勧めてくれましたが、交渉の末にマクペラの畑地と洞穴を自分のたちの墓地として購入して、そこに妻サラを葬ったのでした。約束の地カナンを手に入れることはありませんでしたが、神さまのご計画は彼らをもっとすばらしい天の都に導き入れることだったのでした（ヘブル11:16）。サラが埋葬されたマクペラの洞穴に、その後アブラハム、その子イサクと妻リベカ、孫ヤコブと妻レアも埋葬されました。

その墓は今、世界遺産に指定されて、訪れる多くの人たちに彼らの地上の歩みを祝福し、死んで葬られた後は天の都に導き入れられた神さまを証しています。

◆お祈り

「アブラハムとサラのように真の神さまを信じて従い、自分の生涯と死を通して神さまの素晴らしさを証しすることができますように。」

（生駒めぐみ教会牧師 中谷美津雄）

せいしよかしよ そうせいき しょう
聖書箇所：創世記3章

◆今日のみことば

「あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない。」創世記3章 19節

◆メッセージ

わたし しょうがくせい いがくねん はじ だいじ ひと し けいけん
私は小学生低学年のころに初めて大事な人が死ぬ経験をしました。それはおじいちゃんだったので、からだは動かなくなり、2～3日後には焼かれて骨になってしまいました。それを見ていつか自分もこうなるのだと思ったとき、とても怖くなったことを覚えています。

人はなぜ死んでしまうのでしょうか。神さまがもともと人を死ぬものとして創造されたかということではありません。たとえば私たちのからだの中にある骨は、約3年毎に新しい骨に入れ替わるよう造られています。神さまは、人を死ぬことなくずっと生き続けることができるように造られたのです。ところが、あることが原因で、人は永遠に生きることができなくなりました。それは人が神さまのことばに従わず罪を犯したからです。神さまから「善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べる時、あなたは必ず死ぬ。」(創世記2：17)とされていたのに、人はその木の実を食べてしまったのです。その結果、人は死んで土のちりに帰ることになり(19節)、神は人が永遠に生きることがないようにされました(22節)。

聖書は、私たちはみな罪人だと教えています。だからみな死んで土のちりに帰るのです。しかし神さまは私たちをお見捨てにはならず、私たちのために救い主イエス・キリストを送ってくださいました。そして私たちの罪の身代わりとなってイエスさまは十字架に架かって死んでくださったのです。イエスさまは言われました。「わたしを信じる者は死んでも生きるのです」(ヨハネ11：25)。「生きる」とは永遠に生きるということです。大事な人が死んでしまったことは本当に悲しいことですが、クリスチャンは死んでもイエスさまのお約束のとおり今は天の御国で生きています。もしあなたがまだイエスさまのことを信じていないならば、自分の罪を悔い改めて、イエスさまを信じて神さまから死んでも生きるいのちをいただきましょう。

◆お祈り

「天の父なる神さま、私は罪を悔い改めて、私の罪のために死んでくださったイエスさまを信じます。神さまがお約束してくださった永遠のいのちをお与えください。いつかまた死んでしまった〇〇〇と天国で会えることを感謝します。」

(石神井福音教会牧師 畑中洋人)

テーマ：キリストはよみがえられた

せいしよかしよ てがみだいいち しょう せつ
聖書箇所：コリント人への手紙第一 15 章 20～28 節

◆今日のみことば

「しかし、^{いま}今やキリストは、^{ねむ}眠った者の^{はつほ}初穂として死者の中からよみがえられました。」コリント人への手紙
だいいち しょう せつ
第一 15 章 20 節

◆メッセージ

^{きょう わたし}今日も私たちに^{きぼう ゆうき あた}希望と勇気を与えてくれることばです。^{かみ}神さまは、^{しん わたし}イエスさまを信じる私たちを、^{かなら}必ず「よみがえらせる」と言っているからです。^{やく}イエスさまは約 2000 年前、^{ねんまえ}すべての人の罪の身代わりに
^{じゆうじか}十字架で死んでくださり、^{みっかめ}三日目によみがえられました。そしてよみがえられた^{からだ}体を、^{でし}弟子たちに^{あら}現わして
^{しょうめい}証明してくださいました。まずイエスさまが^{いちばんさき}一番先によみがえられて^{てん}天にあげられたのです。そして^{こんど}今度は、^{ふたたび}イエスさまが再び来られる時に、^{わたし}私たちもよみがえらされるのです。^{さき}先に^{てんごく}天国に^{ひと}いった人たちが、^{つぎ}次に
^{えいえん}永遠のいのちを^{わたし}いただいた私たちが、^{やくそく}よみがえらされるという約束です。

^し死はみんなが通るところで、^し死なない人はいません。人には罪があるので死ぬことが定められているから
です。ところが、^{えいえん}永遠のいのちを^{ひと}いただいた人は、^し死んだ後によみがえらされて、^し死んで^{おわり}終わりではないの
です。ここから^{えいえん}永遠のいのちが^{はじ}始まっていくのです。

^{いま}今あなたは、^{かな}悲しい涙があふれてどうしようもないかもしれません。今は^{いま}それでも、^{なに}何も^{しんぱい}心配はありません。

なぜなら、もうすでにイエスさまをよみがえらせた^{かみ}神さまが、^{つぎ}次に私たちをよみがえらせるという^{けいかく}ご計画
は変わらないからです。^{かみ}神さまの^{たし}確かな^{やくそく}約束です。

しかも私たちは、イエスさまにはもちろん、^{さき}先に^{てんごく}天国に^{あい}いった^{ひと}愛する人たちに^{ふたたび}再び^あ会うことができ、
^{えいえん}永遠を共に^す過ごすことができるのです。^{ほんとう}本当に^{たの}楽しみです。

よみがえられたイエスさまは、^{きょう}今日もあなたの^{かな}悲しみを^{ぜんぶ}全部知っておられます。このイエスさまから^め目を
^{はな}離さないでいきましょう。

◆お祈り

「^{かみ}神さま、^{わたし}私たちの^{かな}悲しみを^し知って、^{とも}共に^な泣いて^{くだ}下さるイエスさまがおられることを^{かんしゃ}感謝します。そして
そのイエスさまの^{あた}与えて^{くだ}下さった^{きぼう}希望によって^{あゆ}歩み、^{さき}先に^{てん}天へ^め召された^{かたがた}方々との^{さいかい}再会を^ま待ち望むことが^{でき}出来
ますように。」

(支援教師 吉持節子)

せいしょかしよ てがみだいいち しょう せつ
聖書箇所：コリント人への手紙第一 15 章 35～49 節

◆今日のみことば

「卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、力あるものによみがえらされ、血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだに よみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。」コリント人への手紙第一 15 章 43～44 節

◆メッセージ

よみがえるって、どんな姿を想像しますか？死んだ時のまま？私の兄は、事故のために2歳で召されたのですが、年をとってしまった私のこと、わかるかなあと心配になりますね。神さまは、どんなふうによみがえるのか、教えてください。

まず、死ということについて、ここでは種を蒔くことにたとえています。暗い土の中で終わってしまうのではなく、新しい命が生まれ出されます。死ぬことも同じ。終わりではなく、新しいのちが芽生えるため、よみがえりのからだを受けるためのプロセスです。

よみがえりのからだは、この肉体のからだと違います。私たちの肉体は、土地のちりと同じ内容。そういう意味ではやがて終わってしまうもの。でも、それは私たちの存在が卑しくて価値がないという意味ではありません。私たちは、イエスさまを身代わりにして罪のゆるしを得させてくださるほど神さまに愛されています。尊い存在です。だから、よみがえりのからだは、この肉体のからだでは不十分です。よみがえりのからだは、栄光あふれ、力あふれる、霊のからだです。全能の創り主なる神さまからいただきます。

この栄光のからだをいただくのは、イエスさまが再臨する時です。順番は、既に召された人々が先。でも、イエスさまを信じた人は、もれなくいただけますから、心配なく。やがて私もこの栄光のからだをいただいて、既に召された愛する人々と会うことができます。楽しみですね。

◆お祈り

「神さま。よみがえりのからだを与えてくださる約束を感謝します。そのことを心待ちにして、この地上の日々も、神さまを見上げて歩みます。」

(習志野台キリスト教会牧師 丸山園子)

せいしょかしよ もくしろく しょう せつ
聖書箇所：ヨハネの黙示録 22 章 1～2 節

◆今日のみことば

みつか すいしょう かがや みず かわ わたくし み かわ かみ こひつじ み ぎ で みやこ
「御使いはまた、水晶のように輝く、いのちの水の川を 私に見せた。川は神と子羊の御座から出て、都
のおおどう ちゅうおう なが がわ がわ じゅうに み き
の大通りの中央を流れていた。こちら側にも、あちら側にも、十二の実をならせるいのちの木があって、
まいつき み むす き は しょく たみ い もくしろく しょう せつ
毎月一つの実を結んでいた。その木の葉は諸国の民を癒やした。」ヨハネの黙示録 22 章 1～2 節

◆メッセージ

いづも やさ かつた おじいちゃん、おばあちゃんが、もしくは、お父さん、お母さん、愛する人に、もう会
えなくなるのはとても かな さび しいことです。イエスさまも私たちの かな おお
悲しみの大きさをわかってください
ました。ところで せいしょ かな
聖書には 悲しみだけではなく、 うれ きぼう ことば
嬉しい希望の言葉もあります。

ヨハネの黙示録 22 章 1 節～2 節は、イエスさまが私たちに招待してくださる天国がどれほどすばら
しいところか記されています。

そこには、すいしょう かがや みず かわ なが かみ せかい つく とき その
水晶のように輝くいのちの水の川が流れています。神さまが世界を造られた時、エデンの園
にも川が流れていました。しかし、てんごく みる かわ きれい みず なが
天国で見る川は綺麗だけでなく、いのちの水が流れていました。いつ
かイエスさまが言われた一度飲むと二度と 飲む ことのないいのちの水、すべてのものを生かすいのちの水
です。そして、そのいのちの水の川は神と子羊の御座から出て、都の大通りの中央を流れていました。い
くら あめ ふ らなくとも、み ぎ で く かわ た
雨は降らなくても、御座から出て来るこの川は絶えることはありません。

そして、こちら側にも、あちら側にも、じゅうに の実をならせるいのちの木があって、まいつきひと み むす
毎月一つの実を結ん
でいました。不思議ないのちの木です。普通は、一つの木に、一年に 1 回、一つの種類の実を結びます。リ
ンゴの木はリンゴを、ぶどうの木はぶどうを、オレンジの木はオレンジを結びます。しかし、天国のいのち
の木は 1 2 種類の実を毎月ごとに、一年中結びます。例えば、一つの木に今月はリンゴが、来月はぶどう
が、再来月はオレンジが結ぶような感じですが、天国では誰も 飢える人も、食べ物や飲み物が悩む人もいな
さ
そうです。それだけではありません。聖書は、「その木の葉は諸国の民を癒やした」と書いてあります。

地上には病気で苦勞している人もたくさんいます。時には病気によって人が死にます。治せるとしても
ちりょう たいへん おも てんごく ちが びょうき ころ いた
治療するのに大変な思いをします。ところが、天国は違います。今までのどんな病気で、心の痛みも、
あちらこちらにあるいのちの木の葉によって、すべての人が癒やされます。天国では医者の仕事は確実に無
なりそうです。

イエスさまを信じて 贖われた人々はすべて神の御国、天国に招かれています。これが地上に生きている
私たちへの本当の希望です。愛する人を天に送ることはとても悲しく辛いことですが、信仰によって天国の
なぐさ おほ
慰めもあることを覚えてください。また、愛する人々と天国で再会できるように、人々の救いのために祈り、
イエスさまを伝えることも忘れないようにしたいです。

◆お祈り

ほんとう きぼう てんごく ま のぞ しんこう あた
「本当の希望、すばらしい天国を待ち望む信仰を与えてくださりありがとうございます。」

こ ま せいしよきょうかい い さんぶん
(高麗聖書教会 李 相勲)